

便教会新聞

第201号

1月 便教会は次世代を担う人たちと掃除を通して学び合う会
令和7年です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして
実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めること
を目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒445-0802 愛知県西尾市米津町天竺桂二七
携帯 090-4215-1727

『いころ揺さぶられた便教会』

便教会活動が今夏25周年を迎えます。日本を美しくする会相談役 鍵山秀三郎様、日本を美しくする会事務局、各地の掃除に学ぶ会のお世話をいただき、毎回、「掃除っていいなあ」と感動を深めて参りました。昨年11月29日、長野県上伊那郡の飯島中学校2年生とトイレ掃除で学び合いました。「こんなに心を揺さぶられた便教会活動は今までにあったでしょうか」と言えるほどの会でした。生徒の感想文を読み、意識の高さに改めて驚きました。一千字オーバーの感想文で、「掃除」を教育活動の柱と捉えている2年学年主任、小田切克仁先生のご指導の賜だと感じています。

「この笑顔が見たかった!!」心から幸せを味わえました。今度は子どもたちと少しずつ実践を積み重ねていきたいと思えます。月一回朝早く、便教会を行っていいこうと思えます。」とお手紙が添えられていました。そのお手紙の追伸には「ここまで一瞬一瞬を具体的に、後日(国語の授業で)書けるものか……と驚きました。」と小田切先生の感動が伝わってきました。感想文から一人ひとりが響いた部分を抜き、その一部をご紹介します。

「自分の心が成長する便教会」

(長野県) 飯島中学校2年生
トイレ掃除はこんなにも人の心を動かすことができるんだと思いました。このようなことは生活の中でも活かせると思います。生徒会でも物事を良くしたいと思ったら色々な視点で見たり、細かいところまで目を通すとより良くなると思います。「人と支え合わないと気付かない汚れもあるんだなあ」「トイレ掃除って人生のできごとと照らし合わせてみたら同じようなことがいっぱい出てくる」「自分がこのトイレをきれいにしたんだという喜びや達成感がものすごく大きかった」「トイレ掃除はどんな物事にでも置き換えて考えられる」

「トイレ掃除から自分の気持ちを見つめる」

本気でやればやるほど変化に感動できます。一つに向き合うことは人に対しても同じ。向き合うことで感じるものがたくさんあるのも人とトイレ掃除の共通点。「トイレ掃除」は人を動かし、人と人を結ぶ大切な行動の一つであると考えます。

「本当の掃除」

掃除をすることで人の心もキレイになってトイレも明るくなる。トイレだけに通用することではない。「思いやり」をもって向

き合って掃除する。これからは対象物も大切に扱い、優しく磨いて最大限までキレイにしてみせます。

「便教会の皆さまへ」

「便教会」なんてただの掃除だろうと思っていました。でも掃除をしていて、これはただの掃除とはまったく違い、自分磨きなんだと気付きました。手をついて一所懸命に掃除していると「とても気持ちがいいな」「周りの人のために良いことをしているな」と思いました。もっと視野を広くして、ここが汚かったらみんな使いたくなくなるだろうと思う所や使う人たちの目に入らない所まで掃除することが今の僕には必要なんだと思いました。それは物事に対する感謝の大切さです。掃除道具まで洗うなんて一度もしてきていませんでした。使わせてもらっている道具たちに最後まで向き合う感謝を忘れないことがとても大切なことだと分かりました。掃除をすれば人は素直になることができます。

「便教会で学べたこと」

「楽しい」と思えたのが今回初めてでした。便所掃除に惹き込まれるなんてことは一般的にはあまりありませんが、本当に「便教会」便所掃除に教わる会は意味があるん

だと思つたし、自分も達成感がすぐあつた。自分たちで掃除した綺麗なトイレを見るととても良い気持ちになれました。他のことを考えないでただただ便所掃除を一時、眞剣にやる時間は自分と向き合えるし、普段では気付くことのできないことも気づける、本当に素晴らしい会でした。

「生き方を変えられる便教」

トイレ掃除は自分を変えられる近道だと思ひました。学校では掃除分担があつてやりたくてもトイレ掃除はできないけど、自分の分担場所、家のトイレ掃除をするようにしています。この会を通して僕は自分を変えられることができたと思います。

「便教会の皆さまへ」

飯島中学校は掃除にとても力を入れてるので、そこまで汚れていないだろうと思つていましたが、便器の裏側はホコリまみれで驚きを越えてショックでした。飯島中学校は掃除に力を入れているのではなかったのかと疑つてしまうほどでした。汚れていた場所を見ると、ある共通点がありました。『見えなかったり、普段掃除をしていて、目にとまらない場所』ということに気付きました。掃除をしてそんなところに気付けるようになったんだなと自分の成長を感じてうれしくなりました。「現状維持だけをしよう」とすると汚れがたまり、それ以上にキレイにしようと思つて日々がんばると現状維持ができる」ということがよく分かりました。今回の掃除を通して普段目につかない所の問題に気付きました。掃除道具入れ

もよくよく見てみると、ガッツリ汚れている部分もあり、「学校をきれいにする掃除道具が汚れていていいのか」と感じる事ができました。

「トイレ掃除から学んだこと」

小便器の縁の裏側を掃除しました。裏側は自分からはよく見えないので隣同士でここが汚れているかを教え合うように言われ、僕も思ひきつて汚れているところを教へてあげました。すると隣では汚れが取れているのか確認しようと頭を便器に入れて見ている人もいました。その姿を見て、こゝまでトイレ掃除に気持ちを込めている人を初めて見たし、それと同時に負けてられないと思ひました。すると、ただトイレ掃除をするのでは感じることもできないようなトイレへの気持ちや使わせてもらつていたときの感謝の気持ちが湧いてきました。掃除が終わつたとき、心が広くなつたような清々しさや切り切つたという気持ちの満足感がありました。そう感じた理由は人のため」といふ他喜力や自分たちの目の前で努力が見られたからだと思ひました。

「便教会で学んだこと」

掃除時間の一時間はあつという間に過ぎ、正直、「もう終わりか」という気持ちと「もっと掃除したかったな」という気持ちです。汚いのがどんどんキレイになつていつて楽しいという気持ちと達成感があつてワクワクした気持ちになりました。今回の一番の収穫は掃除によつて生まれた「集中力」です。毎日コツコツ続けていけば良いと思ひ

ます。雑にやるのではなく、一つ一つ手稲にやつていけば力がつくと思ひます。掃除をやる意味を考えて日頃の掃除を大切にしたいです。これからは掃除の可能性と素晴らしいさを広げていってほしいです。僕も心を磨いていきます。

「うれしい気持ち」

ずっとやつていなかったのか汚れがなかなか落ちず大変でした。手強い分、汚れが落ちたときすごくうれしい気持ちになりました。そのときプチハブニングがあり、手袋に穴が開きました。清掃前は嫌な気持ちがありましたが、いざ破れたときは嫌だなと思ふことなくそのままやり続けることができ、嫌にならないうことに驚きました。この一時間で自分が大きく変わったと思ひます。清掃に対する意識や想いはもちろんですが、自分の心が一番変わったと思ひます。心から便教会に参加して良かったと思ひました。意識を変えてくださった便教会の方々に感謝しています。

「トイレから学んだ自分の心」

掃除をする前に見た掃除動画には「なんであんなに汚い事をしたのに笑顔なんだろう」と不思議でした。磨いているうちに臭いも無くなり嫌から楽しいに変わりました。動画の中の人たちはこんな形で笑つていたのか。みんなの顔は掃除前と後では違つていて全員の顔から笑みが見えました。自分とトイレを見つめて、嫌な気持ちを磨き、己で自分の心を磨き上げる。これが便教会から得た答えです。

「便教会の感想」

掃除をした後、やり切った達成感やまだやりたいという人もいましたが、みんな笑顔でした。掃除をすれば人間性が上がると先生は言っています。僕はそんなことで良くならないと思っています。でも掃除後、確かに人間性は磨かれるのかなと思います。「掃除は人間の心もつくる。」これは正しいのかなと思いました。

「トイレ掃除から学ぶ」

今までの自分たちのトイレ掃除のやり方では甘かった。外から見ただけではキレイに見えても見えない所はこんなにも汚れていたんだと痛感しました。また、臭いが取れないのも今までの歴代の人たちが掃除をしていなかったからだと思つてしまつていたところがあつたけど、掃除すれば臭いだって取れるし、むしろ自分たちが方が掃除をしなかったから臭いも汚れもひどくなつた。このままでは後輩、小学生や保育園児が将来、もっとひどいトイレを使うことになってしまう。だから自分たちで毎日、このトイレと向き合つて嫌な思いをしないようなトイレにしていきたいと思いました。人が嫌がることができるようになって、人のことを助けられるというトイレ掃除のいいところが分かつて良かった。自分も人のことをさりげなく助けられるような大人になっていきたいです。

「清掃をする心が晴れる」

言葉では表せないくらい貴重な経験をすることができました。不安ながらも覚悟を

決めていざやってみたら、不安よりも楽しいという感情が大きくなっていました。

今思えば、もちろん自分の手でトイレが綺麗になっていく達成感があつたこともあるけど、一番の理由は担当の大塚さんの笑つている姿を見たから楽しんで掃除することができたのかなあつて思います。掃除をしてこんな感激したことは初めてだし、心がとてもスッキリしました。掃除をするだけであんなにも変わることにビックリです。これからはもっと学校中を少しずつ綺麗にしていきたいです。最初は掃除したくないなつて思つてしまつたけど、終わった後でこんなにも気持ち晴れるなんて思いもしませんでした。掃除をすることで笑顔になれるつて、本当にそうだなと思います。何も考えずに掃除するのではなく、どう掃除するかを考えていきながらやつていきたいです。

「トイレ掃除はかっこいい」

普段はぜったいにやりたくないはずの便器の中までスポンジだけできれいにすることができました。この調子で壁や床を磨いていきました。汚れだけでなく臭いも無くなつていて小さな汚れも見逃さずに拭きました。床を拭く頃には「やりたくない」なんて気持ちではなくつていて、膝をついてやり始めました。一見すると綺麗でも奥にはホコリがあつたり、見えない汚れもでてくるので隅から隅までしっかりやつていきました。終わつた頃には膝が汚れていたけど、嫌な気持ちなどなく、なぜか少しうれ

しかったです。トイレは輝いているように見えました。トイレ掃除で変わったのはトイレだけではなく、私にも変化がありました。「こんな汚いことやりたいくない」と思つていたはずが、今ではトイレ掃除をできたことをうれしく思っています。掃除が終わつた後にトイレ掃除をする動画を見せてもらったのですが、それを見て私が思つたことは、「かっこいい」の一言でした。

「掃除の力」

この前、2年生だけのボランティア形式のトイレ掃除を行った。その時、もう「掃除」というものを分かつた気がした。校内の掃除でも2年生だけで掃除をしたお陰で掃除の心ができて掃除が変わつたと思ひ込んでいたし、掃除を分かつた氣でいた。でも、段々掃除のモチベーションがなくなつていき、「ちよつとの掃除で変わるのかな？」という疑問まで持つようになった。毎日の掃除で手を抜くようになってしまつた。便教会当日、県外から自腹でトイレ掃除をしに來たという方々の氣が知れなかつた。そういうことまで思いをかける掃除って何だろうと疑問に思ひワクワクしてきた。トイレ掃除でワクワクする気持ちなんて初めてだ。SDG（掃除ができる元気な子）で掃除をしようという心を作つた。全部を綺麗にし、全員でトイレを見ると光つていふように見えた。小使器は自分の顔が反射するようになつたり、友達が掃除していた所を見ると新品のようだった。トイレ掃除を終え、積極的になれた自分がいた。わざわざトイレ掃除を

しに来る意味が分かったかもしれない。みんなの顔が清々しく、凛々しい顔になっていた。掃除に秘められた力があると思う。嫌々やる掃除ではきれいにならない。でも、今日みたいに心を作り、一人ひとりがトイレに向かって直向きに取り組めば絶対に綺麗になる。トイレ掃除だけでなく、学校の掃除だったり家での掃除でも効果は絶対にある。掃除の力は人の心も綺麗にしてしまうのだから。

「自分が変わる、学校が変わる」

今回はトイレだけメインにやったけど、校舎や廊下、教室を今日みたいに一回ずつ大切にして今よりも綺麗にしてから卒業していきなと思っています。その時は少し遠いけど楽しみながら来てもらいたいです。最近、モヤモヤする日が続いていて何だろうと思っていたけど、今日この時間を過ごして終わったら頃には、モヤモヤが消えてスッキリしました。本当にありがたいとうございました。皆さんがいつからこういう活動をしているか分からないけど、世界にはこういう人は正直少ないと思います。僕には学校を今よりきれいにすることなら毎日できるから続けます。今日の掃除で「やりがい」を感じ、学年の皆が掃除について関心を持ったと思うから、最終的には学年ではなく、全校にも今日あったことを広めていったりする活動にしたいです。掃除をしていく中で自分を変えられるので、講演をしてくれた堀内勇斗さんへの恩返しができると思うから、何かをしてくれたら恩を返すことを忘れずに残りの中学校生活を過

ごしていきます。社会に出たらこういうことが当たり前にできる人間になりたいです。

「掃除の大切さ」

私の気持ちは、「トイレって汚いから掃除したくないな」から「トイレ掃除ってこんなに楽しいんだ」に変わっていききました。壁拭きが終わった後、床を磨きました。私が思ったとおり床が一番汚れていました。力を入れて磨きました。便器掃除のときは友達の色を見ることができなかったけど、床掃除の時はみんなすごくいい顔をしていました。4人並んで順番に一つずつ道具洗いをしました。水はどんどん濁っていききました。それくらい汚れが取れたということです。今までの私だったこんなことをしてこなかったということがたくさんありました。気付いたら膝をついて便器を拭いていたり、何の戸惑いもなく便器に手をつこんだり、自分でもビックリしています。膝をついて掃除していたことに驚きました。便教会のトイレ掃除は、「やりたくないを楽しいに変えることができる魔法」だと思えます。掃除に対する考えが変わりました。

「本気のトイレ掃除」

僕がいつも掃除をしている場所は体育館の男子トイレです。このトイレは全校のどのトイレよりも臭いトイレと言ってもおかしくないほどです。いつも掃除しています。が、まったく臭いがなくなりません。高野さんが「この臭いは今日でなくなるよ」と言いました。僕は耳を疑いました。掃除を始めると今までの比ではない強烈な悪臭が

鼻の奥に突き刺さり嫌な気持ちになりましたが、折角こんな時間を取ってくれたのだからとやる気を出し始めました。便器の縁は手で触ってザラザラしているところを見つけて重点的にやりましたが、隣の人と掃除の進捗確認をはさみながら、それぞれ磨いていきました。最初の嫌な気持ちは嘘のように黙々と掃除しました。本来の白さに戻っていく便器を見てトイレ掃除って楽しいと感じるようになりました。トイレ掃除は本当にすごいなと思いました。今まで自分分はトイレ掃除には嫌なイメージがあり、自分の手を汚さないようにビニール手袋をして、掃除するのは床で便器ではないところでした。そうしていると便器はだんだんと汚れてきます。「でも、汚いから」と気がかぬふりをしてやらないでいました。でも、今回の便教会で学びました。汚いからこそやるんだと。汚れているところを少しでもきれいにして、やっと掃除なんだと気づくことができました。これからはトイレ掃除が好きになるくらい、楽しくなるくらいやりたいです。それが本気のトイレ掃除だと思えます。本当に貴重な体験をありがとうございました。ございました。

飯島中学校2年生が便器を磨く姿が目につかびましたか？直向きに掃除する姿に胸が熱くなりました。次号 202号に続く

便教会新聞

第202号

1月 便教会は次世代を担う人たちと掃除を通して学び合う会 便教会新聞発行責任者 高野修滋
令和7年です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして 千四四五一〇八〇二
実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めること 愛知県西尾市米津町天竺桂二七
令を目的としています。

携帯 090 - 4215 - 1727

『こころ揺さぶられた便教会』

(長野県) 飯島中学校2年生
(感想文から一部抜粋)

「やりがい」

トイレは汚く、臭いもあり、おそらく大多数の人が避ける掃除だと思います。しかし、全員が避け続けると更に汚くなっていきます。だから誰かがやらなければいけません。掃除をするとそのやりがいに気がきます。僕たちは今回の便教会でそのやりがいに気付きました。傷だと思っていた黒いものも何十回も擦ると段々取れてくるのです。するとその磨いた黒ずみの周りが他の箇所より白く見えました。掃除を始める前に高野さんから「きれいを広げる」と教えてもらいました。この黒ずみ周りのきれいを広げていこうと思ひ、磨き続けました。そうやって注意深く便器を覗んでいると、また一つ、また一つと黒ずみや汚れを発見していききました。一見きれいだと思っても実は全体が汚れていると、キレイに見えてしまうのかと思ひました。時間がたつのが恐ろしく早く、一時間が二十分に感じるほど掃除に集中できたのです。掃除をするとは気づける心を育むことだと学びました。トイレ掃除だけでなく、日常生活にあるす

べてに気づけるようになれるのがトイレ掃除です。今まではトイレ掃除を避けて通ってきましたが、実はこんなにも楽しかったのです。便器や床、壁を磨き続けることで自分の心が磨かれます。掃除とは本来そういうものだと思います。便器を磨き白くすることで自分の心も磨かれ、気づきが増していきます。そのようにしていけば、きっと人生は豊かになります。大事なことは続けることです。今はまだ続けられていませんが、自分の人生を豊かにするため、これからはトイレ掃除を自分から進んでできるようにしたいと思ひました。

「終えたくない」

トイレという場所は汚いイメージが強く、なんでこんな所にフォーカスして掃除するんだろうと思ひていました。でもトイレ掃除をしないとトイレは汚いまです。汚いトイレを使う方がトイレ掃除をするよりよほど嫌なことでした。自分が掃除をしなくてもトイレが綺麗なのは、自分以外の誰かがやってくれているからです。それに気付いた頃には手袋をつけようなんて思ひませんでした。ザラザラしていたらツルツルになるまで磨き、きれいを広げていきま

した。白いのにザラザラしている部分もありました。視力には限界がありますから、見るだけより実際に触って便器と向き合わなければなりません。外から見える汚れと内側ののぞき込まないと見えない汚れがあります。内側の汚れは普段の掃除でも気にされていなく、古くからこびりついた汚れのようでなかなか綺麗に取れません。便器を左手でしっかりとつかみ身体をホルドして磨きました。本気で力を入れて磨くと汚れは落ちました。時間の経つのが早く、磨くことに夢中でした。掃除終了時、やり終わったなんて思ひませんでした。時間がなくなつたのであつて、やり終えたなんてトイレ掃除にはないんだと思ひました。むしろ、ない方が良いです。一生かけても終わらない、そんなものがあれば、人生は豊かになるんじゃないか、そう思ひました。問題集と違って無限に続けられる深みがあります。心を磨いて、もっと誰かのためになりたいです。人生の中で必ずそうなります。トイレ掃除を通して、終わらない楽しさを学ぶことができました。月曜日にトイレを使ひましたが、確実にいつもと違ひました。小便器は僕が磨いたところではありませんが、教室に向かう途中、気

持ちがスツキリするのを感じました。それと同時に、自分が磨いた大便器も、もしかしたら誰かを今の自分のような気持ちにさせているのかもしれないと思いました。その人から感謝を伝えられたわけではありませんが、無性にうれしくなってきました。トイレを磨く自分の心が不思議なことに変わっていきます。トイレを磨くだけなのに、学ぶことがたくさんありました。日々の生活を見直すきっかけにもなりました。自分と向き合うことだったのかなと今は思っています。自分も他人も良くできる、このトイレ掃除を僕は終わるまでやろうと思います。

「自ら学ぶ便教会」

スポンジで掃除していききれいになってきました。きれいになってきて急に思ったことがありました。あれ？楽しい！と本当にふと感じました。なんでこんなに楽しいんだろ。汚れが落ちるから、興味があるから、何でなんだろうと不思議に思っていたら便器の掃除は終わって、次は壁の掃除。やっぱり楽しくてどんどん汚れを落としていました。最初の嫌だったのはどこへ？なんで手が動くんだろって思いました。一番きれいだと思っていたドアが一番汚かったです。シミのような丸いやつや傷みみたいな黒い線がたくさんありました。小さいスポンジでやってもなかなか取れなくてどうしようって思いました。上から下まで全部汚れていて大変でした。でもなんか汚いの

をきれいにするのは楽しくてもっとやりたいたいと思いました。ぼくは一時間の掃除を通して学んだことはすごくたくさんありました。でも一つ大きい気持ちがありました。「やっぱり掃除は楽しい!!」ということですよ。今までと違い、ぼくの気持ちはやりたくないからやりたいに180度変わっていました。自分が掃除すれば誰かのためになる。このことを一番強く感じました。

「夢中になるトイレ掃除」

私は最初、便教会を終えた後どんな気持ちなんだろう、と見当もつきませんでした。「どれ位、達成感があるのかな」「楽しいのかな」といろんな事を考えました。考えている時、すでに少しワクワクしていました。便教会のみなさんに会った時、私はみなさんのオーラを感じました。内面からくる優しさ、安心感がありました。和式トイレと向き合って真剣に掃除するなんて初めてでした。私は今まで、きれいなトイレにしか出会ったことがなく、便器の中が汚れまくっていて、こびりついた汚れしかないようなトイレを掃除するのは少し嫌だなとも思いました。便器の水を抜く時、臭いがあるのがすごくきつくて苦しかったです。便教会の岡田さんは全く気にしていない様子だったのがすごく印象に残っています。今までこれ以上のトイレと出会ってきたんだと思いい、私もこのトイレの臭いが全く気にならなくなる位まで頑張って掃除しようと思いました。ちよつとやそつとじゃ落ちない汚

れが落ちるまで磨き続けました。段々落ちてきた時、嬉しかったです。この時、すでにトイレ磨きに夢中になっていました。諦めず磨くとこんなきれいになるんだ、と発見もありました。夢中になってやっている、最初は気がつかなかった汚れを気づけるようになりました。「あつ、そこ汚れてる。ここもだ、磨こう」と、どんどん進みました。床や壁を磨く時、タオルのしぼり方とか磨く時のコツを教えてもらいました。最善で最高の掃除をするために、細かいところまでこだわっているんだなと感動しました。必死になって磨いているうちにはもう、トイレの臭いなんて気にならなかつたです。夢中になっていききました。私が壁を磨き終えると、岡田さんが私に「窓の掃除もしてみない？」と声をかけてくれました。外に出ると思っていたより寒かったです。でもそんなことよりも、きれいにするぞという思いが勝って、やる気や楽しさでいっぱいでした。窓サッシはホコリや蜘蛛の糸ばかりで、すごく汚れ、黒かったです。試しに少しだけふいてみると、ふいた面がものすごく真っ黒になりました。想像よりも汚く驚きました。出来る所まで磨くぞ！という思いでサッシ窓を磨きました。その時にはまた夢中になっていました。気がついたらタオルがすごく汚く、黒かったです。ここまでタオルを汚くすることができなんだ、というレベルでした。タオルは黒くなりましたが、サッシ窓を見るとピカピカでした。私の力でこんなにきれいにできることへの

達成感や喜びを感じました。私はこの便教会を通して学んだ「諦めない心」「全力で向き合い楽しむ心」を大切にします。諦めないことで終わった後の達成感がすごく感じられました。またやろう、という前向きな気持ちにもなりました。全力で楽しめば、もう終わりなの？まだまだやりたい、と次に繋がります。この二つの心を大切にこれからも生活します。

「今までの自分を変えていくために」

壁や床をふいた時に臭いが取れて、見えていないところにたくさん汚れやホコリがあつて、トイレに入った時に「ああ綺麗だな」と思っていたけど実際に窓のふちや個室の上の隙間を拭いたり、壁や床を拭いていくうちに、使っていたスポンジやタオルが段々汚れていって、見えない所にもたくさん汚れがあるんだなと思いました。掃除をしていくうちに、だんだんトイレがきれいになって自分の心もだんだん磨かれていきました。飯島中のトイレは綺麗で、それは今までの先輩方がずっと綺麗を保ってくれていたから、今でも綺麗が保たれているんだと思うと、私たちがこれから綺麗を保っていきけるように掃除をしていきたいです。私が担当したトイレのゴミ箱の中には四月からたまっていたトイレトーパーの芯などがたくさんあつて、臭いの原因になるのかなと思いました。トイレに対しての感謝の気持ちや綺麗にしようという心がないからずっとゴミがたまつたままでした。

私も一年生の頃、「綺麗にしよう」という心がこもっていなかったし、掃除の時間は「早く終わらないかな」と考えながら掃除をしていました。でも、私たちは毎日トイレを使っているのに心を込めて掃除しないのはおかしいことに気付きました。家では親が掃除をしてくれていて、学校でもトイレ掃除をさぼっていたら、ただトイレを使っているだけになっていて、他の人の迷惑になっていたり、掃除をしている人に対して失礼だと思いました。これからは、15分間の掃除だけで全部を綺麗にしようとは思わずに一カ所を決めて、今日はそこを綺麗にしようという思いで掃除したり、掃除の時間だけをを使うんじゃないかと朝、学校に来てからトイレの壁や床を拭いたり、入った時にいつでもゴミ箱の中身をまとめたり、掃除の時間以外にも綺麗にできる時はあると思うから、空き時間を使って綺麗にしていきたいです。

「便教会を通して自分に繋げていくこと」

僕はバレー部に所属しています。バレー部ではバレーボールさえ上手くなればいいわけではなく、人間としても成長していくことを大切にしています。その中で毎日奉仕活動をしています。毎日場所を考えてやっているし、何のためにやるのか、ここは公共の場所だからと常に考えてやっています。今日は掃除に根本から教えていただきました。最初、膝をつかないで掃除していましたが、便教会の方のお話を聞いているうち

にいつの間にか掃除に夢中になっていて、便器の中にどんな手を入れて、両膝を床についてやっていました。初めての感覚で自分が本当に自分なのかと少し疑うほどに今までのトイレ掃除への思いや考えがひっくり返るほどでした。時間はあつという間に過ぎもう終わるのかと少し残念に思いながら、スポンジとぞうきんタオルを使って床が見える見るうちにピカピカになり、とても嬉しかったし、喜びを感じられた。たった1時間なのかもしれないけど、自分にとっては大きな学びの時間だった。チーム全員の顔もみんな清々しい雰囲気伝わってきて、自分だけでなく、全員がこの便教会を通して成長していると分かった。でも今日だけだったら誰でもできる。今日の学びをこれからの生活に繋げていくことで今日の学びが生きていると思う。

「私が感じたトイレ掃除」

トイレ掃除を教えてくださいました方は大塚久利さんです。とても明るく、優しい人でした。最初の自己紹介で大塚さんが面白くて少しやる気ができました。便器、壁、床の三つを掃除した後全体を見渡すと明るくきれいになってました。トイレ内の空気がスッキリしてトイレ掃除がどれだけ大事か、どれだけ素晴らしいのかがよく分かりました。便教会で学んだことは、トイレ掃除だけでなくほかの掃除でも使えると思います。教室の掃除や廊下の掃除、スポンジやぞうきんで「キュッキュ」と音が出る

くらい磨いたり、台ふきや布巾でゴシゴシやったり、他にもたくさんあると思います。最初は汚いからやりたくない、面倒くさいなと思っていただけ、汚れが落ちていく瞬間に「すごく楽しい」と感じ、やる気がどんどん上がりました。こんな楽しいトイレ掃除をしたことがありませんでした。

「笑顔が増える便教会」

最初は汚かった所がきれいになって、臭いもなくなってきたので初めてトイレ掃除が楽しいと思えました。そして、どんなことも一所懸命にやれば楽しくなるということも分かりました。トイレ掃除に対して価値観を見いだせたのは今日が初めてで、間違いない便教会の皆さまのお陰でした。トイレ掃除をする心が素直になるということを初めて実感しました。先輩たちが飯島中のトイレを綺麗にしてくれましたが、もっときれいにしてみんなが気持ちよく使えるように今日の便教会で学んだことを活かして掃除します。トイレ掃除が嫌だったけど、自分の好き嫌いは自分で決めていて、そのものに対して一所懸命に向き合っていきたいと嫌いを好きに変えることは難しいと分かりました。だから、今度から好きでないものに対してしっかりと向き合って、どうにか好きに変えられないかと考えながら生活をしていきたいです。今回の便教会で学んだことを活かして、家であったり、町の公共トイレも同じようにきれいにしていきたいです。そうすれば色々な人が笑顔になって、待ちに笑顔が増えていくと思います。あんなに掃除を全力でやったのは初めてだし、楽しいと

思ったのも初めてでした。便教会の皆さんが優しく楽しく教えてくれたからトイレをピカピカにすることができました。また、便教会の皆さんと掃除をする機会を楽しみにしています。

「今までの私とこれからの私」

今までの私は嫌なことばかりでなんとなく言い訳をつけて何もやらない人間でした。去年の今頃から毎日玄関掃除をしてくれる人がいました。私はそれを見ていないふりをして登校しました。ある日、掃除をやっている子に誘われて玄関掃除をしました。最初は抵抗しかなかった掃除が少しずつ好きになりました。あいさつをしてくれる人、ありがとうと感謝を伝えてくれる人たちのお陰で自分が少しずつ成長している気がしました。二期の始まりにお掃除サミットがありました。友達に誘ってもらった時は本当に嬉しかったです。その時私は学校に行けていませんでした。でも、お掃除サミットのために学校に行こうと思いました。友達が声をかけてくれたお陰でまた学校に行けるようになりました。この友達のお陰で掃除がもっと好きになることができました。この活動を広めたことから私たちで企画して飯島中学校でお掃除サミットを開催しました。学年のみんなで集まり、一人ひとりがトイレと向き合える素晴らしい時間となりました。掃除やこの友達に感謝を伝えるべく私は、学校のトイレや玄関だけでなく町体のトイレを毎日掃除しています。きれいになるととてもスッキリしました。11月29日、飯島中学校で堀内勇斗さんの講演と便教会が開かれました。私が担当したトイレは白くツヤも

あって汚れているようには見えませんでした。その時、リーダーの菅原さんが「壁に臭いがついてしまっているね。便器の水を抜いてみよう。」と言って、スポンジを使ってたまたまいる水を奥に押し込みました。そうすると水があったところに汚れが見えてきました。スポンジでこすると少しずつだったけど、汚れが落ちていくのが見えて感動しました。見えないところにも汚れがついていました。そこを見つけてきれいにしていき、細かいところも見逃しません。便教会でトイレ掃除をした感動を忘れるわけにはいきません。これから私は凡事徹底をしていきます。掃除をして気づけたのは、細かいところまで見逃さないこと、継続する力が大切だと思いました。あいさつや生活記録も色々続けること、落ちていくゴミがあったら拾います。ひとつ拾ったらひとつきれいになる、このことを大事にして誰かのために私が動きます。掃除をして気づけたことをこれからの私に繋げていきます。

感想文の中に「掃除が楽しい」のフレーズが何度も出てきました。その度に「やって良かったな」と喜び、熱いものが込み上げてきます。生徒の心を揺さぶったのは「トイレ掃除」。そこからの感動が大きなエネルギーとなって人間力を高めていきます。私たち大人の役割は見守って、フォローしていくことです。

明るく、素直で純粋な飯島中学校の生徒とお掃除できたことは幸せです。こちらこそ大変お世話になり、ありがとうございました。

便教会新聞

第203号

1月7日 便教会は次世代を担う人たちと掃除を通して学び合う会
です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして、実践あるのみ」の教育方針で、自らの人格を高めることを目的としています。

便教会新聞発行責任者 高野修滋
〒445-0802 愛知県西尾市米津町天竺桂二七
携帯 090 - 4215 - 1727

『こころ揺さぶられた便教会』

(長野県) 飯島中学校2年生

(感想文から一部抜粋)

「掃除は人間力を磨く」

トイレ掃除が始まってすぐに思ったのは、一つひとつのこだわりがあるんだな。タオル雑巾の絞り方、掃除の手順、どんな洗剤を使うのかなど思いがあるのが掃除のプロだなと思いました。便器に顔を近づけてみると遠くから見ただけでは分からない汚れがあり、見えている汚れがすべてではないんだなと思いました。掃除をする前に感じていた「綺麗」と掃除をした後の「綺麗」は全然違っていった。道具もきれいに使うと言っていて、便器も道具も大切に使うことが大事なんだと気付きました。トイレ掃除は便器だけではない。周りも掃除してやっとトイレ掃除になると考え直すことができました。床掃除も近づいて見ないと分からない汚れがたくさんあって、綺麗にする気持ちはスッキリしました。今回、便教会の方にトイレ掃除を教えてもらって、僕はとても気持ちが悪く着き、スッキリしました。トイレ掃除にはすごい力があった、気づく力がつくから、学校でも家でもトイレ掃除をしていきたいです。

「便教会の勉強会」

先日の便教会は学校で毎日行っている清掃を見直す機会となりました。掃除をする前と後では目で見ても違いがはっきり分かる程になっていて、黙っていて息をするのにも抵抗があったほどの空気が、掃除後は芳香剤の匂いよりも爽やかでした。気持ちも次第に変わり、引き気味だった気持ちがどんどん前向きになり、もっと綺麗にしたい、ピカピカにしたくなり、悩み事も少し減りました。黄色く霞んでいたトイレが白く光が反射し広くなったような気がしました。掃除終了後の掃除動画では、高校生が手と頭を突っ込んで掃除している様子を見て、気持ちがよく分かれると同時にやっぱり掃除を真面目にやると皆、笑顔になるということが分かりました。これからお身体に気をつけて活動してください。

「見えないものを、見る力」

一日の予定が書いてある連絡黒板に、「便教会」の文字、この三文字が前日から気になって気になってしかたない。目先の便器。いたって綺麗なこの便器。「どこを磨くのか」「一時間も持たない」と心のどこかでそう感じていました。学校では掃除の時間は15分。その4倍もの時間を、しかもこん

な綺麗な便器を、磨けるほどの集中力は続かない。「便教会」に対する期待はあまりなかったかもしれない。僕たちの班のリーダーは宮里哲男さん、一つひとつ道具の使い方から、磨き方、左手の使い方。細かな作法まで教えてくれました。いざ実践。戸惑いました。「どこを磨けばいいんだろ」「汚れが見つからない。」注意深く、これまでに見たことと見つけた汚れもこれっぽっち。この汚れを一時間も磨く。この意味がやっと分かりました。素手で触ってみれば、ザラザラという感触。なるほど、これが一時間のトイレ掃除。綺麗に見えるいた便器でも、見えていただけ。いや、見ようとしなかっただけではないか。人間だけにあって、他の動物にはないものがあります。白目です。なぜ、人間だけに白目があるのでしょうか。それは眼球を動かして色々な方向をしつかり見るため、というものです。つまり、人間は顔を動かさずに視線を動かすことでものをしつかり見ることができます。「無視」ということばがあります。あるものをないもののように扱う、という意味。白目があるからこそ、見たいものを見て、見たくないものを見ない、という人間にしかない特徴があるのです。私

たちは毎日トイレを使います。毎日、何回もトイレを使うのに、見えない汚れがある。いや、見えないではなく、見ていないだけ。「無視」しているだけなのだと、ふと気付きました。「掃除」は人間の生活の中では書かすことができないひとつでもあります。毎日15分の掃除をしている学校のトイレも、こんなに汚れている。これは、その汚れを見ないようにしているだけなのではないか、そう思いました。掃除に終わりはありません。日々の生活の中で、自然と汚れ、ホコリは溜まっていきます。今日綺麗にしたとしても、明日汚れるかもしれない。掃除をしたとて、その時々も汚れ、ホコリは溜まり続けている。掃除こそ、まさに、継続は力なり。一生掃除を継続させることは、毎日を生きているということでもある。人間は汚れしか生まない。その中でも、せめてもの償いとして、ものに感謝すること。これこそ「掃除道」なのではないか。いちばん最初、綺麗な便器だと思っていました。しかし、磨き続けていると、見えない汚れも見えてくる気がしました。これは、掃除という名の掃除をした人にかかからない、掃除の力、やってみなきゃわからない。実践あるのみ。ただ直向きに。目の前の汚れと、目の前の自分と向き合うのみ。連絡黒板に書かれていた「便教会」の文字。掃除の仕方を学ぶんじやない。掃除に学んだ。この文字が最初より少しだけ『読める』気がしました。ただひたすらに便器を磨くということは、自分の『人間味』も磨いている

のだ。毎日の生活が、少しでも彩られるような経験ができました。見えないものを、見ることから。人間だけができること。見ないこともできる。でも、見ようとすることが出来る。これから、自分は、一生かけて「掃除道」に進進していきたい。直向きに「自分」と向き合っていきたい。

「気づきの便教会」

最初は違いが分からなかったけど、やっていくうちに夢中になっていました。リーダーの方から「白くなってるね。」と声をかけてくれたのも嬉しくて、その度にトイレを見返して「もっときれいにしよう」と思いました。掃除を始めてしばらく経つと、気づきの力が上がっていることを実感しました。いつもやっていたことが、見ていなかった所、気づけようと思えた所がどんどん出てきました。終わった後、トイレの見え方が違いました。明るくなりました。私の考えも、気持ちも変わりました。「やる意味が分からない。トイレ掃除で何を得られるのか。」と思っていたけど、トイレも以前より明るく、白くなり、私の気持ちも明るくなりました。いつも見ていない細かな所を見つめてトイレ掃除ができて、普段から気づければいいなと思いました。私は今、体育館のトイレを掃除しています。分担場所の友達と便教会で学んだ技術と気持ちで掃除しています。気付いたら便器をしつかりにぎっています。壁の掃除も集中してやっていて、気がついたら時間になっていきます。便教会で学んだことをこれからも続け

ていきたいです。

「私を変えてくれた夢の便教会」

トイレ掃除の前にトイレ掃除の動画を見ました。トイレと真剣に向き合っている高校生は片手で便器をにぎって、便器の中に顔を入れて磨いていました。「えっ、汚い」意味が分からない。実際、自分がやる側になって顔を入れてみたくなる気持ちがありました。高野由美子さんから「掃除する前の臭い、汚れ、空気、感じるもの、現状を覚えておいてください」と言われました。便器には汚れがたくさんあり、重点的に普段やらないような奥まで磨きました。段々綺麗になっていくのが目に見えるから、もっと奥をとという気持ちでただ一心になって磨いていたら、いつのまにか膝をついて身体が奥に入っていました。そこでようやく動画で見た顔を入れている人の気持ちが分かりました。トイレをもっともっと綺麗にしたい。私はただその一心だったから、あの人もきっと同じだったからだと思います。「壁に臭いの元があるよ」と言われ、タオルには汚れがついて黒くなりました。目には見えなかったけど、磨くと目に見えるのが不思議でおもしろかったです。普段掃除をしていると不意に他のことが頭をよぎり、そのことで頭がいっぱいになるけど、今回の夢の便教会はいい感じの他のことなんて頭をよぎりませんでした。それだけ夢中になっていったんだと思います。私は、夢の便教会を通して今までよりも積極的になれたと思います。トイレ掃除で目に見えないところ

まで掃除したお陰で、日常生活でもほんの些細なことにも気づけるようになりました。トイレ掃除はその場所をきれいにすることができ、人の心まで清々しくしてしまうすごいものだと思いました。初めの抵抗感が今では掃除できる嬉しさ、楽しさに変わりました。多くの人にトイレ掃除の楽しさを知ってもらいたいです。私と同じ気持ちになる人が増えてくれることを願っています。トイレ掃除で私の行動は、人を幸せにする幸動にもなれました。トイレ掃除の持つ力のすごさを体感しました。トイレ掃除は私の心の中心にいます。

「心とトイレに光りを灯す」

私は、トイレ掃除にいい印象はあまりなく、学校ではトイレを掃除分担で任せてもらっているため、やる機会はあるものの自ら家などのトイレ掃除をすることはなく、トイレ掃除がよいものとは思っていませんでした。ですが、「学びたい」「知りたい」「どんなことが変わるのか」という気持ちはありませんでした。菅原伸吾さんに教わって、便器の中、壁、床を磨きました。トイレ掃除に限らず、掃除では細かい汚れなどにも気付く心が必要で、磨いたところは綺麗になって、その分バケツの水は汚れていくことがわかって、とても達成感がありました。道具の扱い方にも心を込めることが必要で、次に使う人のことを考えることの大切さを教えてもらいました。なるほどとうなずくことばかりでどんどん夢中になっていききました。最初、しゃがんでやっていただけ、

いつの間にか膝をついて左手を添えてやっていた。さらに、手袋に水が入っていたのにも気づかず夢中でした。終わって見渡すと白く光っていました。それを見る私たちの心も綺麗になったようです。トイレ掃除にはいろんなことを動かしたり、変えたりする力があると思いました。

「トイレ掃除の見方の変化」

トイレ掃除をやる中で私が嬉しかったことがいくつもありました。トイレ掃除をやる前に、グループでトイレがどんな状態なのかを確認しました。トイレを見ても全然汚れが見つかりませんでした。でも、トイレ掃除をやっていくうちに見えなかった汚れが見えてきて、その汚れがとれていくのを見ると、自分でもこんなに綺麗にできるんだと嬉しくなりました。そして、掃除をしていると便教会の方が回ってきてくれて、「その構え方がいいね」「その拭き方はゴミが散らばらないからいいね」「トイレが光ってきたね」とことあるごとに沢山褒めてくれて、とっても嬉しかったし、とっても楽しかったです。今回の便教会では、手で触る「触覚」、目で見つける「視覚」、臭いで感じる「嗅覚」を使ってトイレ掃除をするということを教えてもらいました。これからトイレ掃除をするときは、触覚、視覚、嗅覚を大切にしてトイレ掃除をしたいです。便教会は勉強になることがたくさんあったし、とっても楽しかった。トイレ掃除の見方が変わりました。

「あとからくる君たちへ」

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎

みなさんにお願したいことがあります。まず第一は頭のいい人になってもらいたい、ということです。頭がいい人というのは試験の点数が良いとか、あるいは難しい本が読める人とする人が多いんですけども、私が言う頭がいい人というのは、いつも良いことを考えている人が頭の良い人ですね。仮に試験の点数が良くて有名な大学に受かったとしても、悪いことを考える人は頭の悪い人です。世の中には立派な大学を出ていながら悪いことを考えている人がいっぱいいますね。そんな人間にならないように、みなさん方はいつも良いことを考えて、本当の意味で、頭の良い人になってもらいたいですね。人間は同時に二つのことを考えている人は出来ません。良いことを考えている人は同時に悪いことを考えることはできないんです。反対に悪いことを考えている人は同時に良いことを考えることは出来ないんです。だとしたら、いつも良いことを考えていれば、悪いことを考えたり、思ったりすることはないわけですから、徹底して良いことを考えていただきたいと思います。二つ目は良い頭と連動しますが、良い心を持つて欲しいということです。「心あるところに宝あり。」心というのは、物差しで大きさを測ったり、あるいははかりで目方を量ったりすることはできないんです。

しかし、目には見えないけど、間違いない存在するんですね。あの人は心が広い人だ、あの人は心が大きい、深い、温かい、明るい、こういうふうに言いますね。目に見えないのにどうしてそんなことが分かるのかというと、その人の行動を見ると分かるんですね。その人が良いことをしていると、その人の心は大きい、深い、温かい、明るいんです。一方、悪いことをしている人を見ると、その心が小きい、狭い、暗い、冷たいんです。そういうふうになつていくんです。良い心を持てばそれだけで宝物を持ったのと同じなんです。もちろん人生にはお金は大事です。お金がないと生きていられない面もありますけれども、それ以上に大事なことは、良い心を持っているかどうかということなんです。

人間はしっかりと明確な目標を持つと強くなるんです。目標のない人、夢のない人、希望のない人は非常に弱いんですね。目標のない人はすぐに壊れてしまします。その人間の弱い心はつきりとした目標を持つと、強くなり鋼鉄で出来たように変わっていくんです。明確な目標、夢、希望を持つということがいかに大事かということを見なさんにお伝えいたします。ただし、いくら夢があったとしても、それが自分だけのことであれば決して強くなれないんですね。自分だけ良い思いをしたり、楽をしたり、自分個人の願いを夢とか希望とは言わない。それは欲望です。単なる欲望では人間は強くなることはできないんですね。自分の身

体、手足を使つて世の中の人のためになる、誰かの役に立つ、社会国家の役に立つ、そういうことをはつきりと持った時に初めて、人間は心も強くなると自分の体験から学んで参りました。明確な目標、夢を持つて、取り組んでいただきたいですね。しかし、人間は大きな夢、大きな希望、大きな願いを持つと、苦しいこともそれに比例して出てくるんです。良いことをしようと思えば思う程、人から笑われたり、反対する人が出たり、抵抗されたり、そういうものです。私は20歳の時に東京に出て、勤めた会社で非常に汚い会社でした。こんな会社では良い仕事はできないと思つて、住み込みで先輩が6人いて、私を入れて7人でしたが、私一人だけ先輩よりずっと早く起き、お店に出て、周辺からお店の中、そしてトイレ掃除を始めたんです。先輩から余計なことをするなといじめられました。でも私は止めなかった。自分のやつてることが決して悪いことではない、正義である、正しいと取り組んできました。正しい者が必ずしも勝つとは言えないんですけれども、正しい者は必ず強いということは言えますね。私は強くなれた、それは正しいことをしていたから強くなれた。もしか先輩の意地悪に負けて止めていたとしたら、それで人生はつまらないもので終わつたと思います。その会社で大きな試験を受けて、試験を乗り越えた。それでまた次の目標に向かって進んでいく力になつたんです。

【編集後記】201号、202号、203号の編集を終えた今、とても清々しく新しい力が湧き上がってくるのを感じています。飯島中学校便教会の感動が再び蘇つてきて、便教会の夜明けを感じています。トイレ掃除の意義を十二分に理解し、実践する生徒達に心が揺さぶられました。飯島中学校の校風、小田切先生のご指導の賜です。飯島中とご縁をいただけたこと、深く感謝申し上げます。飯島中学校は「聖域」であり「パワースポット」だと感じています。一緒に掃除しただけですが、場が清められると同時に大人も浄化されます。一緒にお掃除した生徒からパワーをもらつて、教えている側が教えられることが多くありました。この生徒たちから学び、気づきを得ることが大人社会が良くなる糧だと思ひました。生徒たちは無欲、無私、無心でトイレ掃除と向き合いました。しがらみだらけの大人、特に高齢者は握っているものをリリースし、平穩、安らかな気持ちで生きるためには、飯島中学校のような生徒を育てることです。そうすれば日本は明るく、希望を持てる国になると信じています。飯島中学校の生徒たちに日本の将来を託したい、そんな気持ちです。彼らの力で日本が浄化される日が来るだろうと思ひました。令和七年、飯島中学校からトイレ掃除の波紋が広がってきます。二月一日、駒ヶ根市立赤穂中学校で先生対象の便教会が開催されます。教師が変われば子どもが変わる、学校が変わる、社会が変わる、日本が変わる。便教会は次世代を担う人たちと掃除を通して学び合う会です。「方法論や技術や手法ではない、ただ身を低くして実践あるのみ」

高野修滋先生

今夏で、九回にも及ぶ

「便教会」も、続けて来てくだざり
まことに有り難うございます。

高野先生がお一人で立ち上げた
便教会の主旨に共鳴された
先生方によって、新しい便教会が
各地に誕生し、広く深く浸透
しております。

斯くも多くの方に支持される
便教会の魅力は、一全一性
にあると確信いたします。

普通何事においても、まず
目標を建て、目標を実現する
ための手段を考えます。

その時、目標と手段との間に、違
基準が用いられることは、よく
あります。

この多面的な基準の違いが、人
びとの間の信頼を損う要因となる
ことが多くあります。

真実を求める者の教育の場では、
あつてはならないことであつても、

現実には、多面的であることが
普通になつてゐます。

そうした思ひ風潮を一掃し、
「真実と現実」とも、そのまゝ結ぶ
つけてゐるのが「便教会」です。
「真実を通して見えて来る現実」に、
「全一性」をもつて取り組まれる
先生方も、児童・生徒さん方が
信頼の眼をもつて見つめ、心も
開いて、学ぼうとする意欲が
高くなるのは、当然の帰結で
あると思ひます。

便教会が学ぶ場を、最高で
最善の環境に整えることを
確信いたします。

高野先生の高い志に共感され、
支持をしてくださる先生方が、
多岐にわたることに、
感謝申し上げます。

鎌山秀三郎様

第15回便教会に寄せて

「前人未踏の偉業」この言葉に相当する行いは、とても数が少なく、そうあるものではないかもしれません。

困難を克服した偉業とは言っても、それが一個人の名誉欲を満たすものであつては、意味も価値もありません。偉業と言うからには、その行いが、

多くの人のためや社会に貢献するものでなくてはならないと思ひます。

この尺度を当てはめてみますと、

便教会を充足させて、15回に至るまで育てられ、全国各地に同じ主旨の会を誕生させた高野修滋先生こそ、偉業を成し遂げた人と言えましよう。

そして教育界に「前人未踏の道」を拓かれたのです。

日本には先生の資格を取得する

ための教育があり、先生になつてからも教育を受ける機会があります。

しかし、そのいずれもが形式的な内容であり、授業に際して真に役に立つものが少ないというより、皆無といった方がいいかと思ひます。

先生方の研修では、睡魔と闘うことが一番大変だつたとは、よく聴く話です。教室におりては、日々児童・生徒と相対し、時には保護者と対峙することもある先生方にとって、真の自信を授けてくれる教育が無いのは、由々しき大問題であると思ひます。

現代の教育制度に不備があることは、日本の社会現象が証明しています。

これまで何人も解決できなかったこの問題を、高野修滋先生が便教会の実践を通して解き明かして下さりました。長い間この重大な問題の解明ができたかったのは、手段・方法が見つけられなかったのではなく、問題が何人であるかが、誰も分がらなかつたのです。

芦田恵之助先生が、自己を教育するのが、他を教育する最捷徑であると言われた通り、先生方が便教会の実践から学んだことを、教育の場で活かして下さるようお願い申し上げます。学ぶとは誠実を胸に刻み込むこと。ルイ・アラゴンより。

鎌山秀三郎